「これからプラン2008 – めざせ2018 –」から「これからプラン2018 – めざせ2028 –」へ

私たちは、「これからプラン 2008」を作るときに以下の３つを基本的な考え方としました。

私たちのよろこび　みんなで楽しく、たくさんの人に喜んでもらえる企画を創り出す

・「たくさんの人」とは
　→多様さと人数を示している。インクルージョン（社会包摂）の考え方に基づき，年齢・性別・国籍・障がいの有無等に関わらず様々な人ととらえている。多様な人々とできるだけ多くの文化が繋がることで、互いに認め合い支え合う温かな地域社会をつくることになると考えます。

私たちが果たしたい役割　つなぐ（文化とさまざまなものをつなぐ）

・憲法に定められた文化的で健康な生活の保障
　→文化は人としての暮らしの基盤であり，その文化を多くの人に届けることで，心豊かな生活を送る人が増え，地域の活力と活性化に繋がる。
・働き方改革の底流にあるのは，経済指標から生活指標への転換
　→経済的な豊かさの追求から，人間らしい生活へのシフトである。さらに，人間らしい生活の底流には文化的な体験や経験が不可欠であり，たくさんの人と文化をつなぐ役割を担う活動も同じく不可欠となる。

私たちが目指す地域の姿　市民の力でまちづくり

・ベッドタウン（寝に帰る町）からの脱却
　→全ての人が人間らしく活きる為にそこで暮らす人が互いに力を寄せ合い活動するまち。

そして、今、新たな「これからプラン 2018－めざせ 2028－」を策定するにあたり、上の３つの基本的な考え方を踏襲するとともに、「活動の継続」を重要課題として考えました。私たちのミッションである、地域の方々と文化をつなぐ活動は、生きる喜びや希望を生み出すことにつながると思います。それは、未来に「希望をつなぐ活動」でもあると思います。そこで、私たちは活動の継続を大切な課題と考え、これからも希望をもって取り組んでいきたいと思います。
そのためには、「活動の継続」、「協働の継続」、「地域との連携」の３つがポイントになると考えました。詳細は以下を参照して下さい。

活動の継続

取り組みの意義

○多くの人を文化につなぐ活動は、人々の心を豊かにし、幸福度が高く住みやすい社会を築くことに貢献できる。また、そこで生まれる人と人との出会いやつながりは新しい活動を生み出す力にもなる。

成　果	5 年後	10 年後
内部での継承がすすむ	事業などの研修を行い、ノウハウを勉強することができている 方策１．NPO たけとよの仕組みと各担当ごとのマニュアルを作り、しっかりと勉強できる機会を作る	会員間の世代を越えて一緒に企画を作っている
楽しく活動できる	一つ一つの事業を行うにあたって活発に意見交換ができている 方策１．他地域の取り組みを視察し、自分たちの事業に反映する 方策２．担当者会議を活発に行う	事業の展開や構成について活発に意見交換ができている 方策１．他地域の取り組みを視察し、自分たちの事業に反映する 方策２．事業についての情報交換を活発に行う
新たな会員・スタッフの確保がすすむ	NPOたけとよに興味のある町民が増える 方策１．NPO たけとよの紹介パンフレットの配布やアンケートを実施する 方策２．ちょこボラの募集や、NPO たけとよを紹介するイベントを企画する	幅広い年齢の会員が現在（2018）よりも 30% 増えている 方策１．NPO たけとよの紹介パンフレットの配布やアンケートを実施する 方策２．ちょこボラの募集や、NPO たけとよを紹介するイベントを企画する
NPO たけとよの事業の認知度が上がる	SNS などの Web 環境を使った情報発信をこまめに行い、情報が目に入るようにする 方策１．メディア・SNS での情報発信と紹介映像を作る 方策２．ゆめプラスを充実させる	時代に即した情報発信をこまめに行い、あらゆる人に情報が伝わるようにする 方策１．時代に即した情報発信を工夫し、紹介映像を更新する 方策２．ゆめプラスをはじめ効果的に情報を伝える
資金を確保する	・助成金の申請に努力する ・企業賛助会員が 10 社を超える 方策１．助成金の情報を積極的に集める 方策２．優良団体としての活動を継続する 方策３．チラシに賛助会員の企業名を入れる 方策４．企業と協賛した企画の冠に企業名を入れる	・助成金の申請に努力する ・企業賛助会員が 10 社を超える 方策１．助成金の情報を積極的に集める 方策２．優良団体としての活動を継続する 方策３．賛助会員の企業名を時代に即した方法で広報する 方策４．企業と協賛した企画の冠に企業名を入れる


H3ロケット講演会（主催：文化発信事業実行委員会）／有田誠


サイエンストーク／日本化学工業（株）


文化のまちづくりセミナー／池辺潤一

協働の継続

取り組みの意義

○地域の文化力＊の向上は行政の大きな役割の一つで、その効果的な取り組みには地域住民との協働が有効であり、その継続は地域の文化向上に大きな力となる。

○文化力の向上を目的とした取り組みは、様々な分野や関係者との関わりが不可欠である。縦割りに陥りやすい行政に、総合的で横断的な取り組みが求められるとともに、行政と住民との協働では、両者の話し合いも求められ、行政がより地域に開かれたものへと変革する手助けとなる。

成　果	5 年後	10 年後
ゆめプラの情報の見える化で NPO たけとよの事業への理解が深まる	役場で日常的にゆめプラの情報に触れることができるようになっている 方策１．役場でアウトリーチをする 方策２．ゆめプラの実績を報告する場を作る 方策３．町職員がゆめプラの情報を得やすくする 方策４．保育園、小中学校のアウトリーチを継続する	役場で日常的にゆめプラの情報に触れることができるようになっている 方策１．町職員がゆめプラの情報を得やすくする 方策２．保育園、小中学校のアウトリーチを継続する
行政と地域がまちづくりについて共に考える姿勢が、多様な場面でみられる	・文化創造プラン改定に参画する。 ・武豊町の教育委員会以外の課とも連携事業をおこなっている 方策１．継続的なまちづくりセミナーの実施 方策２．行政職員と共に事業を企画する	・文化創造プラン改定に参画する。 ・武豊町の教育委員会以外の課とも連携事業をおこなっている 方策１．継続的なまちづくりセミナーの実施 方策２．行政職員と共に事業を企画する

地域との連携の推進

取り組みの意義

○地域との連携を進めることは、住民自身の手で文化力＊の向上に取り組むことに大きく役立つ。また、活動に参加する人が増えることで、地域の活性化が進み、さらに住みよい地域を生み出すことにつながる。

成　果	5 年後	10 年後
地域の住民が直接事業に関わることができ、ゆめプラをより身近に感じている	・地域の人たちと一緒に企画したり、事業を行っている ・専門家と地域の人が出会える場がある 方策１．気軽に参加できるシステム（リレーコンサートやボランティア登録など）で理解を得る 方策２．連携事業を行っている 方策３．地域のニーズをつかむ（小中高学校アンケート、保護者アンケート、学校の先生アンケート）	・地域の人たちと一緒に企画したり、事業を行っている ・専門家と地域の人が出会える場がある 方策１．気軽に参加できるシステム（リレーコンサートやボランティア登録など）で理解を得る 方策２．地域のニーズをつかむ（小中高学校アンケート、保護者アンケート、学校の先生アンケート）
企業との連携が深まる	サイエンストークの継続 方策１．サイエンストーク参加企業を増やす 方策２．サイエンストークに参加した企業の PR を考える	サイエンストークの継続 方策１．サイエンストーク参加企業を増やす 方策２．サイエンストークに参加した企業の PR を考える

＊文化力：文化の持つ、人々に元気を与え地域社会を活性化させて、魅力ある社会づくりを推進する力（文化庁ＨＰより）

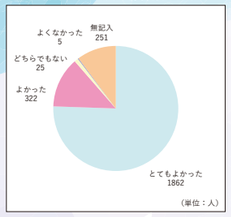
2025/1/5 更新

アンケートデータ

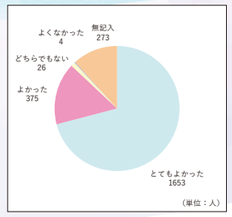
※ 調査対象：NPOたけとよ主催の鑑賞事業や講演会

感想

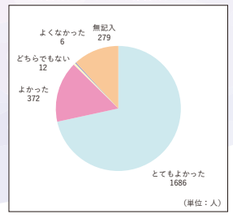
2016
（回答数2465人/入場者数4269人）



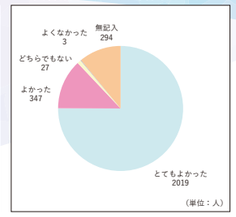
2017
（回答数2331人/入場者数3794人）



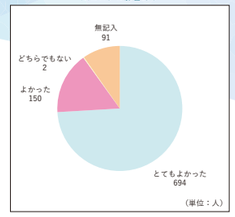
2018
（回答数2355人/入場者数3596人）



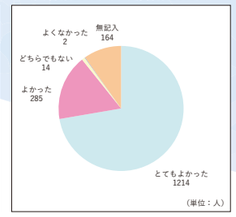
2019
（回答数2690人/入場者数4836人）



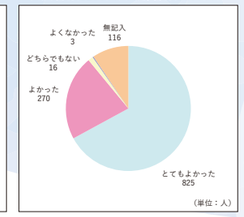
2020
（回答数937人/入場者数1305人）
※コロナの影響あり



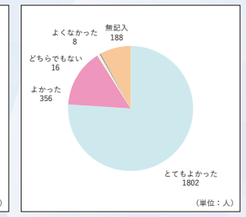
2021
（回答数1679人/入場者数2483人）



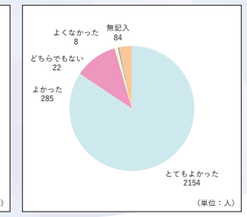
2022
（回答数1230人/入場者数1850人）



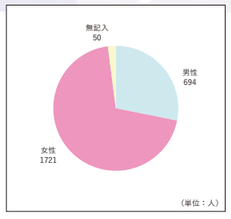
2023
（回答数2318人/入場者数4064人）

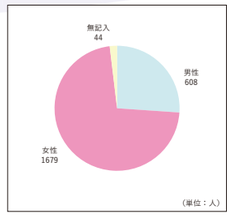


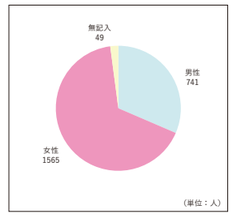
2024
（回答数2553人/入場者数3979人）

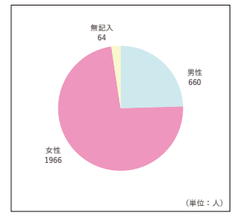


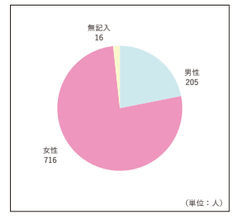
性別

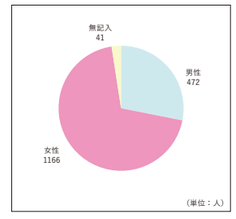


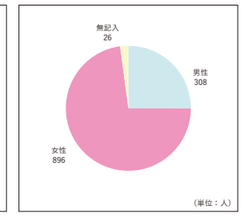


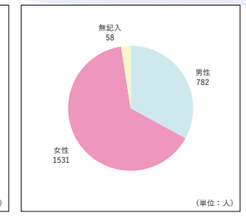


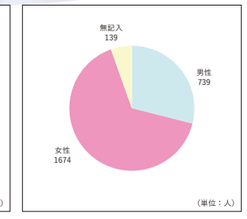




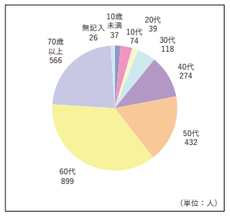


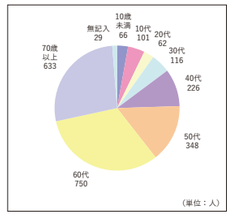


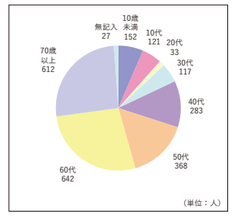


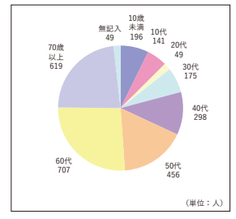


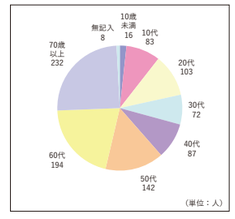
年齢

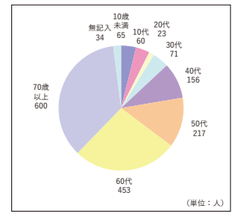


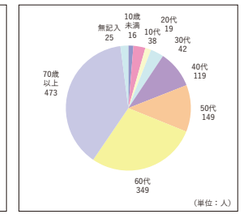


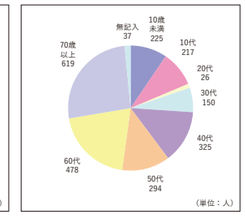


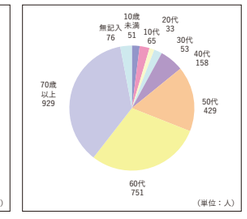




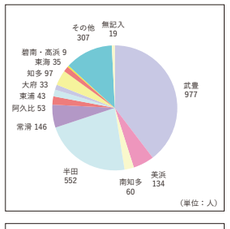


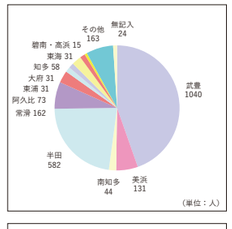


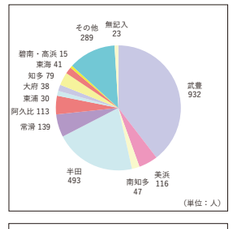


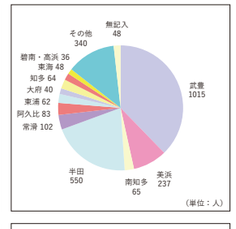


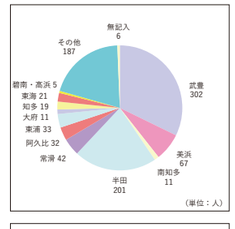
住まい

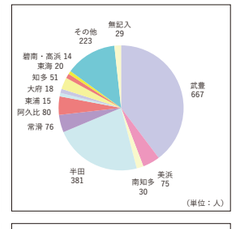


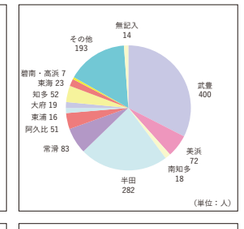


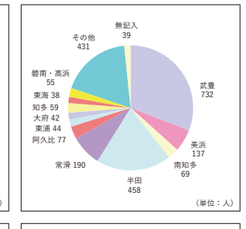


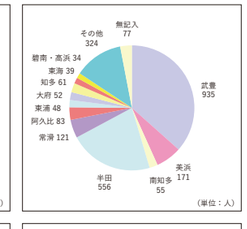




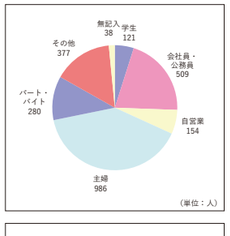


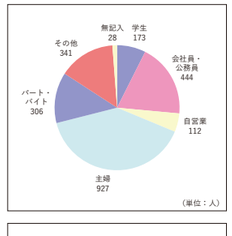


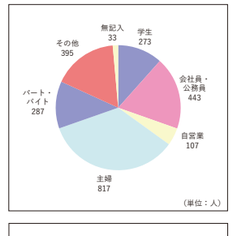


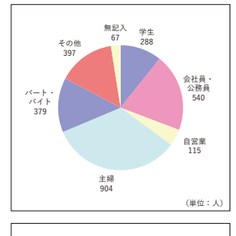


職業









情報源

希望する公演